

設計のヒント



設計図面のルールを知ろう。

- 図面上の長さや高さの数値は mm 単位で書きます。
- 縮尺を必ずいれます。(1/100、S 1:100 など)
今回は 1/100 で描いてみましょう。
- 平面図は基本的に北が上になるように描きます。工事での混乱やミスを防ぎ、設計条件として重要な日当たりや影の落ちる方向、風の吹く向きなどがわかりやすくなります。
- 壁や窓は太く濃く、家具などは細い線で描きます。メリハリがついて見やすくなります。

モジュールで考えよう。

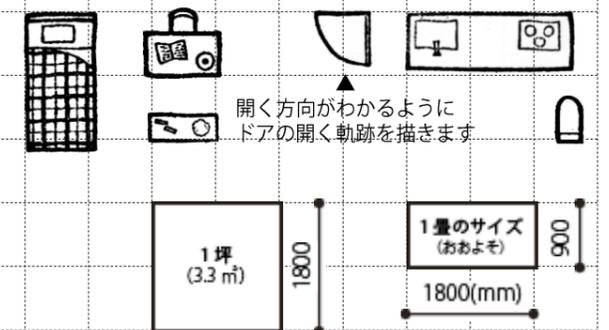
モジュールとは、設計をするときに基準とする大きさのことです。

代表的なものは尺に基づいたモジュール(1 単位(3 尺):900 または 910mm) や、メートルを基準としたモジュール(1 単位:1000mm)などがあります。

今回は、尺に基づいたモジュールで考えてみましょう。尺は人の体の大きさが元になった単位です。伝統的な日本住宅は尺をもとに建てられており、現代の住宅の設計でも尺に基づいたモジュールがよく使われています。尺に基づいたモジュールの1 単位は、畳のサイズの基準にもなっています。「立って半畳、寝て一畳」ということわざもあるように、日本人にとっては感覚的にスケール感が身に付いているモジュールともいえます。

おおまかなサイズ

- 4 畳半の部屋… 3 マス × 3 マス
 - シングルベッド… 1000 × 2000mm (約 1 × 2 マス大)
 - 机… 900 × 600 mm (1 マス × 2/3 マス)
 - 椅子… 320 × 320mm ~ (1/3 マス × 1/3 マス)
450 × 450 mm (1/2 マス × 1/2 マス)
 - 本棚… 300 × 900mm (1/3 マス × 1 マス)
- ※実際に家具の大きさを測ってみましょう。



9mm グリッド (1/100 では 1 マス 900mm × 900mm になります)